

子どもの生活と意識に関する調査

報告書

平成23年3月

目黒区

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の種類	3
3. 調査方法と回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	3
第2章 調査結果のまとめ	5
第3章 調査結果の詳細	11
1 子どもの生活と意識に関する調査（小学生向け）	13
1. 回答者属性	15
（1）性別	15
（2）学校の区立・私立	15
（3）同居家族	16
2. 日常生活	17
（1）平日の放課後や休日の過ごし方	17
（2）就寝時刻	18
（3）朝食・夕食の頻度	18
（4）夕食の時刻	19
（5）朝食・夕食を一緒に食べる人	19
3. 家庭	20
（1）家庭での生活	20
（2）保護者が自分の話をきちんと聞いてくれないと思う理由	21
4. 人権	22
（1）子どもの権利	22
（2）人に認められていると感じるとき	24
5. 不安や悩み	26
（1）悩みや不安	26
（2）区の事業の周知度	28
（3）心配事や悩みの相談相手	29
6. 活動	31
（1）地域活動への参加状況	31
7. 自由回答	32
2 子どもの生活と意識に関する調査（中高生向け）	35
1. 回答者属性	37

(1) 性別	37
(2) 学年、就業状況	38
(3) 同居家族	39
2. 日常生活	40
(1) 平日の夕方以降や休日の過ごし方	40
(2) 朝食・夕食の頻度	42
(3) 夕食の時刻	43
(4) 朝食・夕食を一緒に食べる人	44
(5) 生活への満足度	45
(6) 自分の居場所	46
3. 家庭	48
(1) 家庭での生活	48
(2) 保護者が自分の話をきちんと聞いてくれないと思う理由	50
4. 人権など	51
(1) 「目黒区子ども条例」の周知度	51
(2) 子どもの権利	52
(3) 10代の人権が大切にされていないと思うこと	57
(4) 子どもの権利を尊重するまちの実現に向け、大切だと思う区や地域の取り組み	58
(5) 人に認められていると感じるとき	59
5. 不安や悩み	62
(1) 悩みや不安	62
(2) 区の事業の周知度	65
(3) 心配事や悩みの相談相手	67
6. 活動	69
(1) 地域活動への参加状況	69
(2) 夢中になれたり、充実感を感じたりするとき	71
7. 自由回答	73

資料 調査票	77
--------	----

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

目黒区では「目黒区子ども総合計画」を策定しており、区政やまちづくり、子どもの人権などについて、子どもの意見や生活実態を把握し、今後の区政に反映させることを目的としたものである。

2. 調査の種類

調査名	調査対象
1. 子どもの生活と意識に関する調査 (小学生向け)	小学5年生1,000名 (目黒区住民基本台帳からの無作為抽出)
2. 子どもの生活と意識に関する調査 (中高生向け)	平成22年4月2日から平成23年4月1日までに、満14歳・満17歳になる各1,000名 (目黒区住民基本台帳からの無作為抽出)

(注)「中学2年生」「高校2年生」には、専修学校や専門学校等の各種学校の生徒や就労している人、またそれ以外の人も含む。

3. 調査方法と回収状況

調査方法：郵送配布－郵送回収法

調査期間：平成22年11月11日（木）～11月30日（火）

〈 回収状況 〉

調査名	発送数	回収数	回収率	
1. 子どもの生活と意識に関する調査（小学生向け）	1,000件	571件	57.1%	
2. 子どもの生活と意識に関する調査 (中高生向け)	中学2年生	1,000	535	53.5
	高校2年生	1,000	422	42.2
	合計	2,000	957	47.9

4. 調査項目

(1) 日常生活 (2) 家庭 (3) 人権など (4) 不安や悩み (5) 活動

5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果のまとめ

§ 子どもの生活と意識に関する調査（小学生向け）

1. 日常生活

平日の放課後や休日の過ごし方について、平成21年度調査と比較した。平日の放課後についてみると、「保護者や祖父母などの家族・親族と過ごす」は、「午後6時から8時」が前回の51.8%から、今回は39.9%へ、「午後8時以降」が、前回の86.3%から、今回72.5%へと減少している。一方、今回の調査で新たに選択として追加した「家で勉強をする」が、午後6時前、午後6時から8時、午後8時以降のいずれの時間帯でも1割を超えている。

休日についてみると、平日と同様に、今回調査では、前回調査に較べて、「保護者や祖父母などの家族・親族と過ごす」が各時間帯とも減少しているが、今回選択肢として新たに追加した「家で勉強をする」は、いずれの時間帯でも1割を超え、特に午前中で19.8%を占めている。

こうしたことから、平日、休日を通じて、各時間帯とも1割以上の児童・生徒が家にいて勉強している実態がわかる。

2. 人権

子どもの人権について、平成21年度調査と同一の項目について「はい」という回答結果を比較してみた。〈自分のことが好きですか〉については、前回調査の49.6%から、今回調査では48.7%、〈学校は楽しいですか〉については、前回調査の63.3%から今回調査では63.4%、〈友だちに自分の意見を言うことができますか〉については、前回調査の62.3%から今回調査では63.4%と、いずれも大きな変化はみられない。

今回新たに追加した項目についてみると、〈家庭で自分が認められていると思いますか〉は「はい」が65.1%を占めているほか、〈学校で自分が認められていると思いますか〉も52.7%となっており、これに「どちらかといえばはい」を合わせると、8割以上の児童・生徒が、家庭でも学校でも《自分が認められている》と考えていることがわかる。

また、自分のことが好きな児童・生徒ほど、家庭においても学校においても、《自分が認められている》が多くなっており、自己肯定感を持つうえで、他人に認められるということが大きな要因となっていることがうかがわれる。

次に、自分が認められていると感じる時としては、「周りの人に感謝されたとき」が73.0%で最も多く、これに「周りの人が遊びなどにさそってくれたとき」「大人や保護者から役割をまかされたり、頼りにされたりしたとき」の順で続いている。

3. 不安や悩み

普段の悩みや不安について、平成21年度調査と比較すると、「勉強や進学のこと」は、前回調査の29.6%から、今回調査では33.3%へ、「友だちとの関係」は、前回調査の27.5%から、今回調査では29.2%へと、いずれも微増している。

各項目によって、比率の増減はあるが、勉強・進学、友人関係が大きな不安や悩みとなっている状況は、変わっていない。

こうした悩みの相談相手としては、「母」が68.1%で最も多く、これに「友だち」が45.5%で次いでいる。児童・生徒の悩みの相談相手として、母親と友だちが大きな存在であることがわかる。

§ 子どもの生活と意識に関する調査（中高生向け）

1. 日常生活

平日の夕方以降や休日の過ごし方について、平成21年度調査と比較したところ、中学2年生、高校2年生とも、全体的な回答傾向に大きな相違はないが、中学生の場合、平日、午後6時前「クラブ活動をしている」が、前回調査の69.4%から、今回調査では63.0%へ、高校生でも、前回調査の59.5%から、今回調査では48.3%へと低下している。

2. 人権

子どもの人権について、平成21年度調査と同一項目について、「はい」という回答の結果を比較してみた。中学2年生では、〈自分のことが好きですか〉が、前回調査の23.5%から、今回調査では33.8%へと、〈自分らしく生きていると思いますか〉が、前回調査の38.8%から、今回調査46.4%へといずれも増加している。また、高校2年生でも、〈自分のことが好きですか〉が、前回調査22.8%から、今回調査では28.4%へと、〈自分らしく生きていると思いますか〉が、前回調査の32.3%から、今回調査38.9%へといずれも増加している。

今回の調査結果から見る限り、中学2年生、高校2年生とも、自己肯定感が高まっていることがわかる。その一方で、今回新たに追加した項目では〈イライラしたりすることがありますか〉について「はい」という回答が、中学2年生で51.4%、高校2年生で55.7%と、いずれも5割を超えており、児童・生徒が学校生活や家庭生活の中で多くのストレスや不安を抱えていることがわかる。

次に、自分が認められていると感じる時としては、中学2年生では、「周りの人に感謝されたとき」が69.5%で最も多く、これに「周りの人が悩みなどの相談をしてくれたとき」「周りの人が遊びなどに誘ってくれたとき」の順で続いている。高校2年生でも、ほぼ同様の回答傾向となっている。

10代の人権が大切にされていないと思うこととしては、中学2年生では「大人の意見を10代に押しついたり、10代の意見を軽視すること」が、前回調査の47.3%から、今回調査では52.3%へと増加している。高校2年生では、「大人の意見を10代に押しついたり、10代の意見を軽視すること」が、前回調査の65.1%から、今回調査では53.6%へと減少している。その一方、「大人がしつけや教育を理由に、子どもを殴る、暴言を吐くこと」が、前回調査の31.0%から、今回調査では38.6%へと増加している。

子どもの人権を尊重するまちの実現に向けて取り組むべきことについてみると、中学2年生では、「危険な場所や犯罪がなく、安心して過ごせるまちをつくること」が、前回調査58.5%から、今回調査では55.7%へと減少している。高校2年生では、「危険な場所や犯罪がなく、安心して過ごせるまちをつくること」が、前回調査の50.4%から、今回調査では45.3%へと減少している。

3. 不安や悩み

不安や悩みとしては、中学2年生では、「進路のこと」が、前回調査の37.4%から、今回調査では41.3%へと増加している。また、高校2年生では、「進路のこと」が、前回調査の69.4%から、今回調査では69.7%へと微増している。

次に、「勉強のこと」については、中学2年生では、「勉強のこと」が、前回調査の48.6%から、今回調査では49.0%へと微増している。一方、高校2年生では、「勉強のこと」が、前回調査の65.9%から、今回調査では52.4%へと減少している。

各項目によって、比率の増減はあるが、勉強・進学、友人関係が、大きな不安や悩みとなっている状況は変わっていない。

こうした悩みの相談相手としては、中学2年生では「友だち」が63.6%で最も多く、これに「母親」が53.6%で次いでいる。高校2年生では、「友だち」が72.5%で最も多く、これに「母親」が56.9%で次いでいる。中学2年生、高校2年生とも、小学5年生に比べて、「友だち」の存在が大きくなっていることがわかる。

